

## 2014 年（平成 26 年）の日本の天候（速報）

### 2014 年（平成 26 年）の日本の天候の特徴：

年平均気温は、全国で平年並

北日本では、冬から春の前半にかけて気温の低い期間が多く、東日本及び西日本でも、夏の後半から9月前半にかけての低温が明瞭だったが、その他は気温の高い期間も多かった。また、沖縄・奄美でも、夏から秋の前半は気温の高い状態が続いたが、その他は気温の低い期間が多かった。このため、年平均気温は全国で平年並だった。

東日本日本海側と北日本は多雨・多照

北日本及び東日本では、春から夏の前半及び秋に高気圧に覆われて晴れの日が多かったことから年間日照時間は多く、特に北日本太平洋側と東日本ではかなり多かった。一方、低気圧や台風等の影響でたびたびまとまった降水となったため、東日本日本海側と北日本の年降水量は多かった。

西日本は、2003年以来11年ぶりの冷夏

西日本の夏の平均気温は、太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱かった等の影響で低く、2003年以来11年ぶりに冷夏となり、さらに日照時間もかなり少なかった。特に、西日本太平洋側で1946年の統計開始以来、8月における月間日照時間の少ない記録と月降水量の多い記録を更新した。一方、北・東日本では、日本の東海上の高気圧が強く、高気圧周辺で南から暖かい空気が流れ込んだため、また、沖縄・奄美でも、暖かい空気に覆われることが多かったため、夏の平均気温は高かった。

関東甲信地方で記録的な大雪

2月上旬と中旬に、低気圧が発達しながら日本の南岸を通過し、太平洋側では広い範囲で大雪となった。特に、14日から16日にかけては、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となった。

「平成 26 年 8 月豪雨」が発生

7月30日から8月26日にかけては、台風第12号が接近し、台風第11号が上陸するとともに、前線が日本付近に停滞し、日本付近への暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだため、四国地方をはじめとして各地で大雨となり、広島県広島市では集中豪雨による大規模な土砂災害が発生した（「平成 26 年 8 月豪雨」と命名）。

本資料は、全国 154 地点の气象台等における 12 月 20 日までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。12 月 31 日までの観測データによる資料は平成 27 年 1 月 5 日に発表します。

# 1 概況

冬から春の前半にかけては、全国的に、気温の低い時期と高い時期が交互に現れた。強い寒気の南下は一時的で日本海側の冬の降雪量は少なかった一方、関東甲信地方では記録的な大雪に2度見舞われた。春の後半から夏の前半にかけては、北日本と東日本では、移動性高気圧に覆われて気温の高い晴れの日が平年と比べて多かった。西日本では、5月に晴れの日が多く、6月に曇りや雨の日が多くなったが、気温はほぼ平年並だった。一方で、沖縄・奄美では、梅雨前線の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。夏の後半から9月半ばにかけては、北日本から西日本にかけては、太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱かったため、気温が低く、東日本と西日本を中心に曇りや雨の日が多かった。また、2つの台風や前線等の影響で長期間にわたり広い範囲で大雨に見舞われた（「平成26年8月豪雨」）。9月半ば以降は、周期的に気温の高い時期と低い時期が現れ、北日本と東日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、10月は2つの台風が上陸し、ほぼ全国的に降水量が多かった。沖縄・奄美では、冬から春の前半まで気温の低い時期が多かったが、夏から秋の前半にかけて気温の高い日が多く、特に9月は記録的に気温が高かったほか、先島諸島では夏以降の少雨が11月まで続いた。これらの結果、年平均気温は、全国で平年並だった。また、高気圧に覆われて晴れの日が多かったため、年間日照時間は北日本太平洋側と東日本でかなり多く、北日本日本海側で多かったが、低気圧や台風等によるまとまった降水があったため、これらの地域では年降水量も平年を上回った。一方、6月以降、8月を中心に曇りや雨の日が多かった西日本では、年間日照時間が少なく、年降水量は平年を上回った。また、先島諸島の少雨が顕著だった沖縄地方では、年降水量は少なかった。

冬は、東日本と沖縄・奄美では、一時期を除いて寒気に覆われることが多く、冬の平均気温は低くなり、東日本では3年連続の寒冬となった。一方、前年12月の気温が高かった北日本と1月下旬に気温がかなり高くなった西日本では平年並だった。一方で、上空の強い寒気の南下は一時的だったことから、日本海側の降雪量は北日本の山沿い等を除いて平年を下回った所が多く、特に北陸地方の平地では平年を大きく下回った。また、2月には低気圧が発達しながら日本の南岸を2度通過し、太平洋側では広い範囲で大雪となり、特に14日から16日にかけては、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となった。

春は、北日本から西日本にかけては、期間を通して高気圧に覆われる日が多かった。春の日照時間は沖縄・奄美を除いてかなり多く、東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側では、統計を開始した1946年以降最も多かった。また、春の降水量は、北日本日本海側と西日本では少なかったが、低気圧の通過時にまとまった降水があったことから、北日本太平洋側と東日本は平年並だった。東・西日本では、寒気が南下し低温となる時期もあったが、3月下旬と5月下旬に南から暖かい空気が流れ込み、気温が平年を大幅に上回ったことなどから、春の平均気温は高かった。沖縄・奄美では、冷涼な高気圧や寒気の影響を受けて気温の低い日が多く、春の平均気温は低かった。

夏は、梅雨前線の影響は沖縄・奄美を除いて弱かったが、主に7月30日からの2つの台風や前線等の影響で広い範囲で大雨に見舞われたことから（「平成26年8月豪雨」）、北日本、西日本太平洋側では夏の降水量がかなり多く、東・西日本日本海側でも多かった。また、西日本では、気圧の谷の影響と太平洋高気圧の西日本付近への張り出しが弱かった影響で、夏の日照時間がかなり少なく、夏の平均気温は、2003年以来11年ぶりに低く、冷夏となった。一方、日本の東海上で高気圧が強かった影響で、高気圧周辺で南から暖かい空気が流れ込んだ北・東日

本及び暖かい空気に覆われることが多かった沖縄・奄美の夏の平均気温は高く、北・東日本では5年連続の暑夏となった。

秋は、北日本から東日本にかけて、大陸からの移動性高気圧に覆われて、晴れる日が多かった。このため、東日本日本海側と北日本の秋の日照時間はかなり多く、東日本日本海側と東北地方では1946年の統計開始以来、秋としては最も多い記録を更新した。北日本と東日本では、2010年から4年連続で秋の平均気温が高い年が続いていたが、9月を中心に大陸からの冷たい空気を伴った高気圧に覆われる日が多かったため、5年ぶりに秋の平均気温は平年並となった。また、沖縄・奄美では、高気圧の勢力が平年より強かったため、先島諸島を中心に秋の平均気温がかなり高く、秋の降水量は少なかった。

## 2 気温、降水量、日照時間の気候統計値 (12月20日までのデータによる)

### (1) 平均気温

年平均気温は、全国的に平年並だった。

### (2) 降水量

年降水量は、北日本と東日本日本海側、西日本太平洋側で多かった。東日本太平洋側と西日本日本海側、沖縄・奄美では平年並だったが、西表島(沖縄県)では年降水量の平年比が最小値を下回っている。

### (3) 日照時間

年間日照時間は、北日本太平洋側と東日本でかなり多く、北日本日本海側では多かった。室蘭、浦河(以上、北海道) 熊谷(埼玉県) 銚子(千葉県)では、年間日照時間の平年比が最大値を上回っている。一方、西日本では少なかった。沖縄・奄美では平年並だった。

地域平均平年差(比)と階級(2014年)(12月20日までのデータによる)

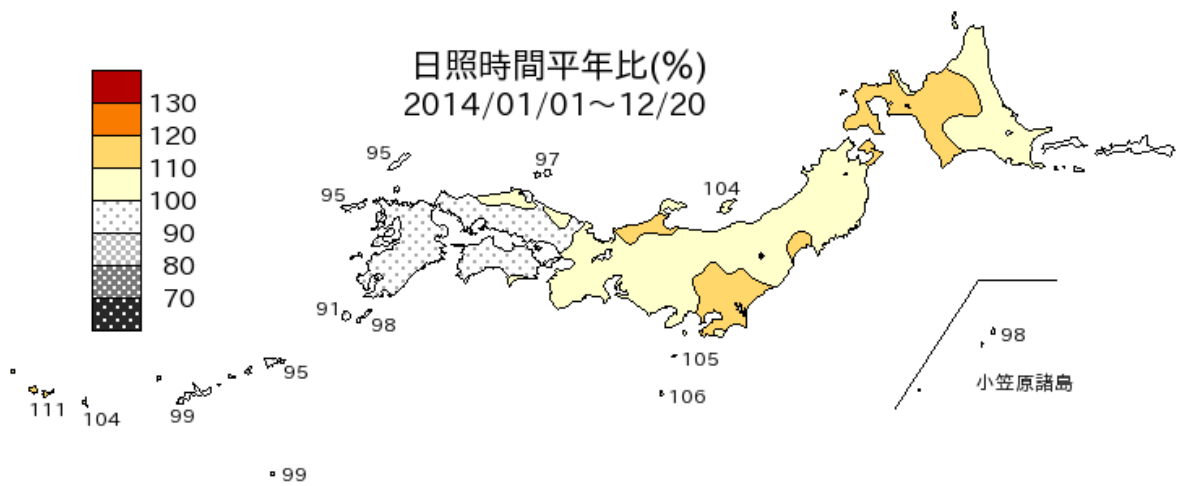
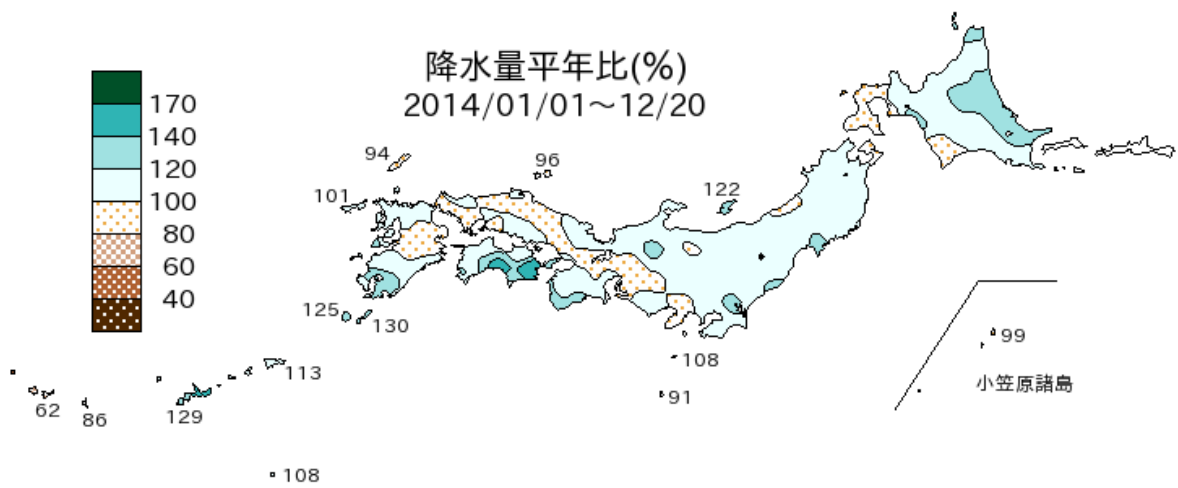
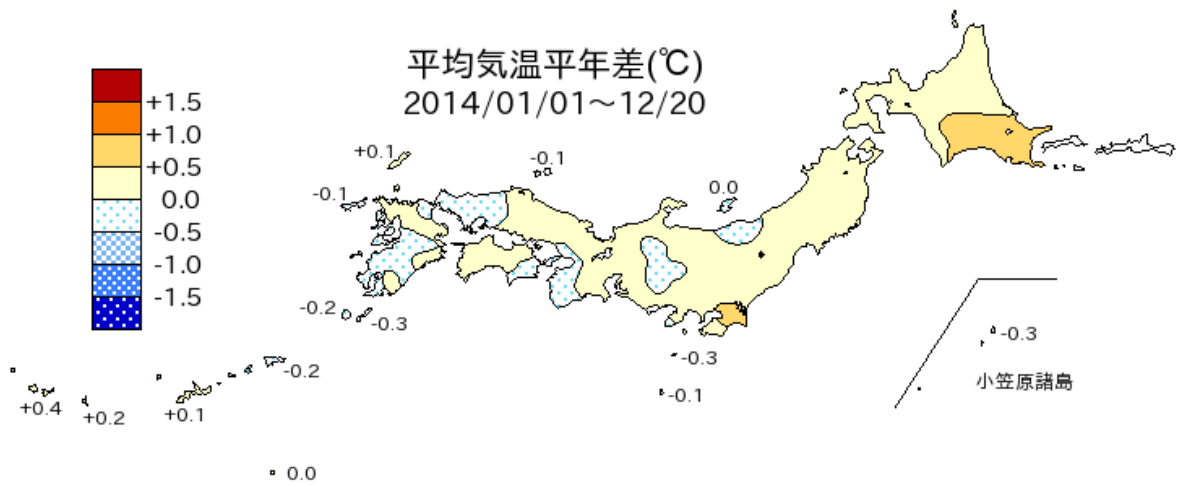
	気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)
北日本	0.3 (○)	109 (+) 日 107 (+) 太 111 (+)	110 (+)* 日 109 (+) 太 111 (+)*	北海道	0.4 (+)	108 (+) 日 107 (+) 才 120 (+)* 太 104 (○)	111 (+)* 日 111 (+) 才 106 (+) 太 113 (+)*
東日本	0.1 (○)	106 (○) 日 111 (+) 太 105 (○)	108 (+)* 日 108 (+)* 太 108 (+)*	東北	0.3 (○)	111 (+) 日 108 (+) 太 113 (+)	109 (+) 日 108 (+) 太 110 (+)*
西日本	0.0 (○)	109 (○) 日 103 (○) 太 114 (+)	97 (-) 日 96 (-) 太 98 (-)	関東甲信	0.2 (○)	108 (+)	110 (+)*
沖縄・奄美	0.1 (○)	94 (○)	102 (○)	北陸	0.1 (○)	111 (+)	108 (+)*
				東海	0.1 (○)	101 (○)	105 (+)
				近畿	0.0 (○)	105 (○) 日 102 (○) 太 106 (+)	102 (○) 日 103 (○) 太 102 (○)
				中国	0.0 (○)	陰 98 (○) 陽 98 (○) 99 (○)	陰 98 (○) 陽 100 (○) 96 (-)
				四国	0.0 (○)	123 (+)	97 (-)
				九州北部	0.0 (○)	105 (○)	94 (-)
				九州南部 ・奄美	-0.1 (○) 本-0.1 (○) 奄-0.1 (-)	119 (+) 本 120 (+)* 奄 112 (+)	96 (-) 本 95 (-) 奄 97 (-)
				沖縄	0.2 (+)	87 (-)	104 (+)

階級表示 - :低い(少ない) 0:平年並 +:高い(多い) 地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)  
\*はかなり低い(少ない) かなり高い(多い)を表す 才:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美  
太:太平洋側

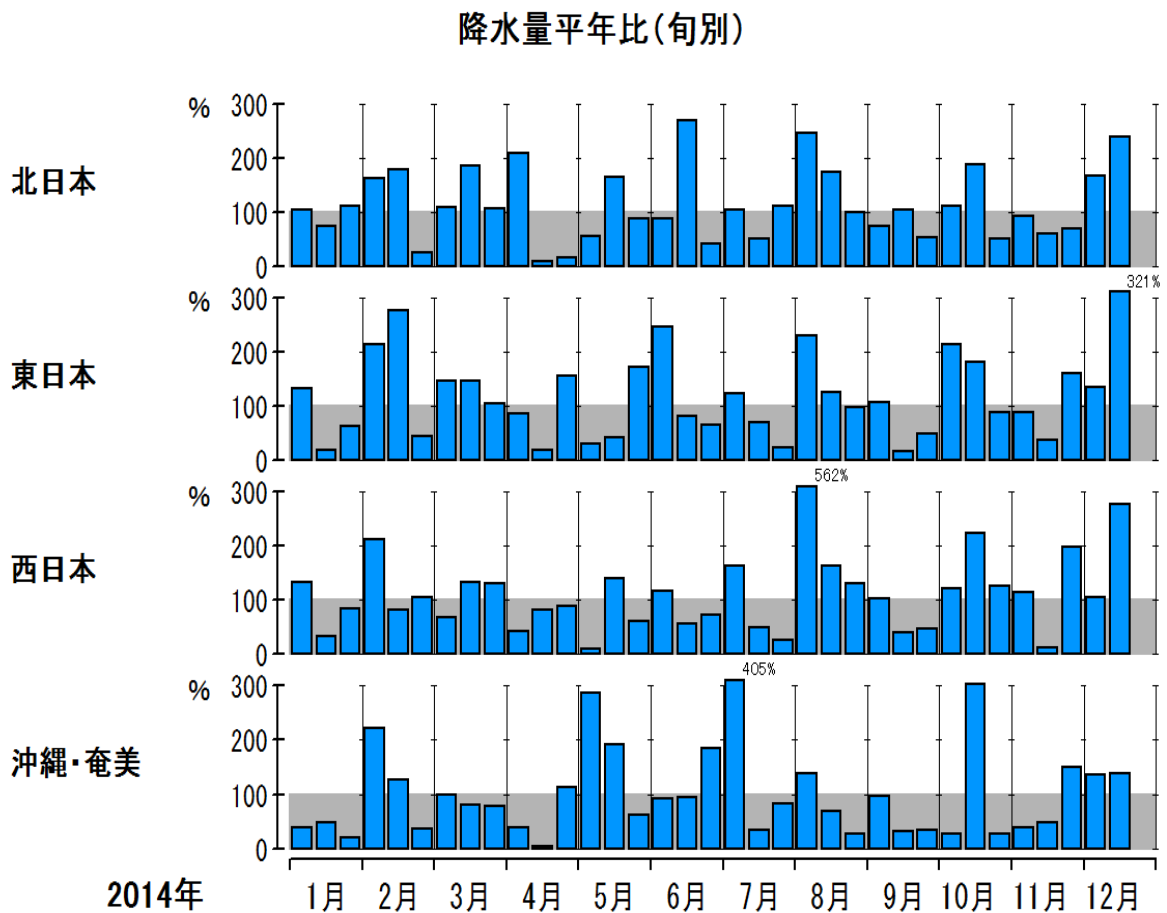
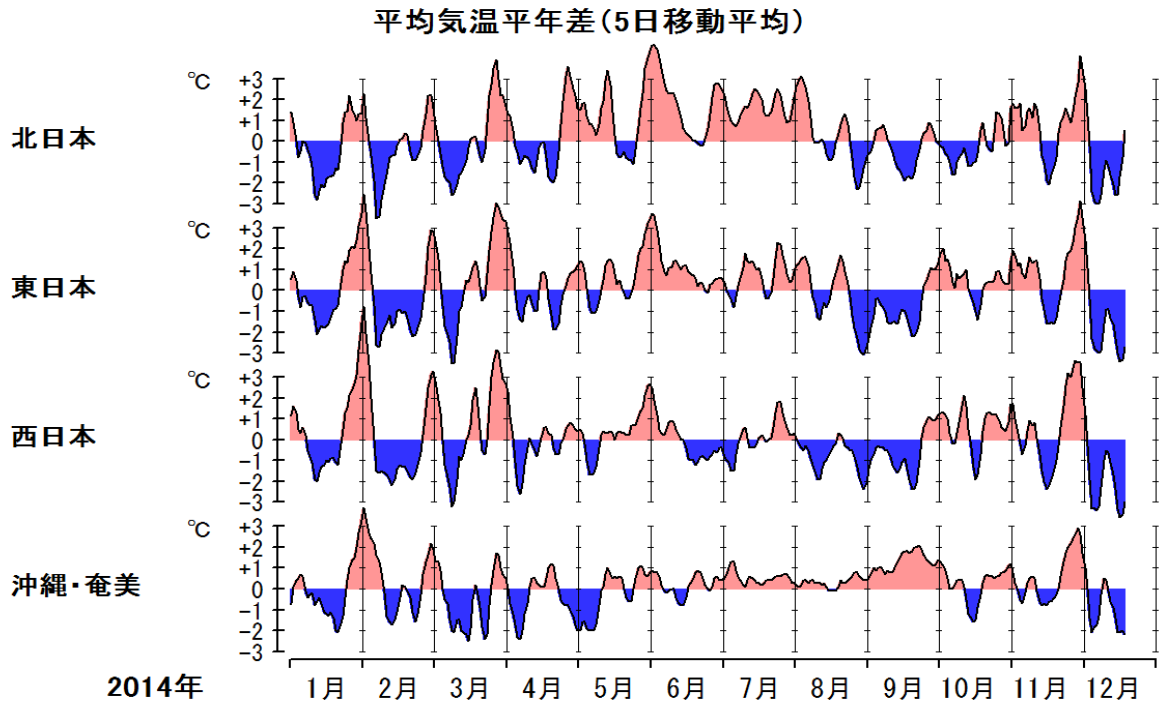
(注)・基礎となるデータは全国の気象台等での観測値で、観測所数は154地点である。このうち、降雪の深さ、最深積雪については、観測を行っている106地点が対象である。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981~2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

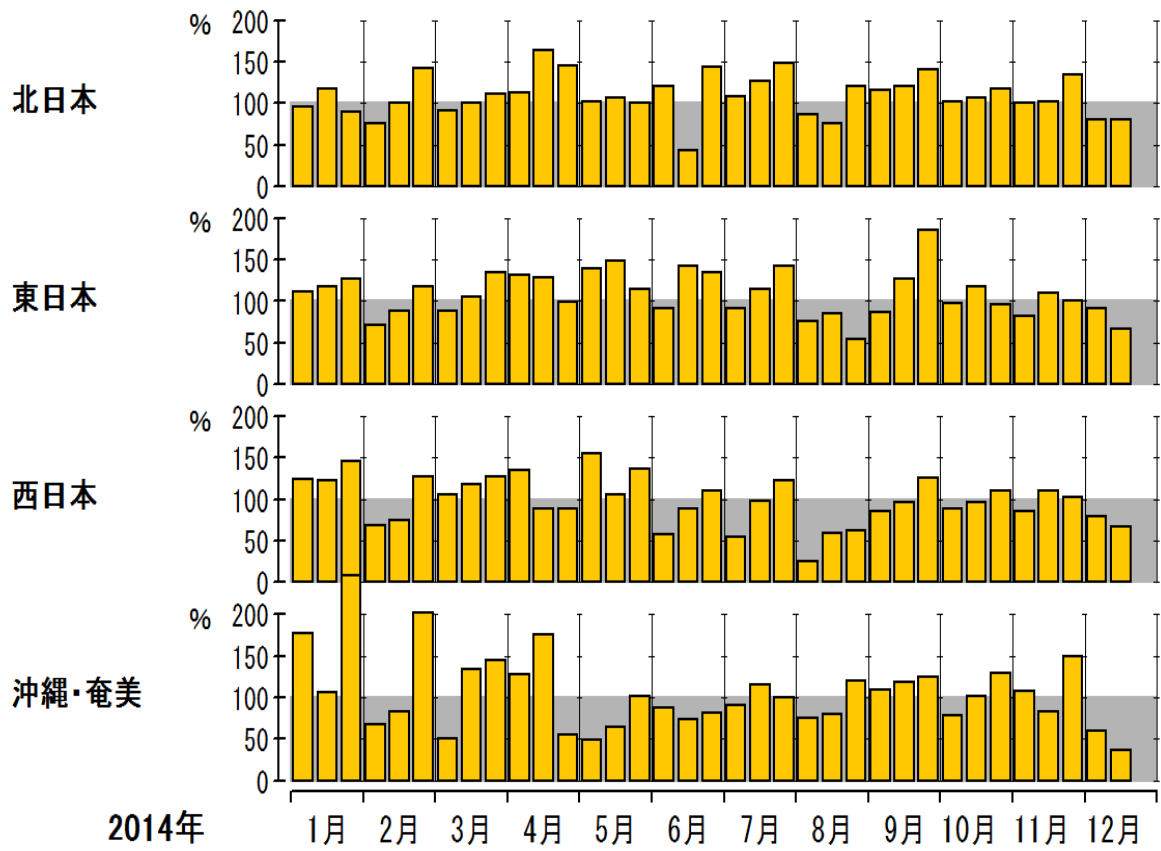
平年差（比）図（2014年）（12月20日までのデータによる）



地域平均平年差（比）の経過（2014年）（12月20日までのデータによる）



### 日照時間平年比(旬別)



## 観測史上1位の値（月、3か月、年別値）の更新地点数

- ・全国154地点の気象台等の統計値の中で、観測史上1位となった地点数を記載した。
- ・値は1位を更新した地点数でタイ記録は含めない、タイ記録がある場合には「値ㄨ」として横に併記した。
- ・更新およびタイ記録の地点数の合計が5以上のとき、主にその記録が分布している地域を記載した。
- ・速報では、統計的に12月の日数が基準に達しないため、平年差（比）が1位をとった地点数を掲載した。

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の深さ	最深積雪
	最高	最低	最大	最小	最大	最小	最大	最大
1月	0	0	0	3	24 東・西日本、 沖縄・奄美	0	0	0
2月	0	0	3	1	0	0	16 東日本	11 東日本
冬	0	0	0	0	1	0	4	/
3月	0	0	7 北・東日本	1	1	0	4	1
4月	0	0	0	6 北日本	35 北・東日本	0	0	0、1ㄨ
5月	3、3ㄨ 北日本	0	0	0	30 東・西日本	0		
春	0	0	0	1	17、1ㄨ 北～西日本	0		
6月	7 北日本	0	1	8 東・西日本	0	1		
7月	0	0	0	0	0	0		
8月	0	0	17、1ㄨ 北～西日本	0	0	29 東・西日本		
夏	2	0	2	0、1ㄨ	0	4		
9月	4、1ㄨ 沖縄・奄美	0	0	2	11 北日本	0		
10月	0	0	1	1	0	0		
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
秋	3	0	0	2	9 北・東日本	0		
年(速報) (2014年)	0	0	0	1	4、2ㄨ 北・東日本	0	/	/



### 3 季節別の天候経過

冬（2013年12月～2014年2月）:

東日本と沖縄・奄美は、冬の平均気温が低かった

日本海側は一部地域を除いて、冬の降雪量が少なかった

太平洋側では大雪に2度見舞われ、関東甲信地方を中心に記録的な大雪となった

東日本以西では、1か月程度の周期で気温が変動し、各月とも中旬を中心に寒気に覆われた。

東日本と沖縄・奄美では、冬の平均気温は低く、東日本では3年連続の寒冬となった。西日本では、1月下旬から2月はじめにかなり気温の高い日が続いたことから、冬の平均気温は平年並だった。また、北日本では、12月の平均気温は高くなったものの、1月以降は気温の低い日が多く、冬の平均気温は平年並だった。上空の強い寒気は、北日本方面に一時的に南下した程度だったことから、日本海側の降雪量は北日本の山沿い等を除いて全般に平年を下回った地点が多く、特に北陸地方の平地では平年を大きく下回る地点が多かった。

12月中旬から1月中旬にかけては冬型の気圧配置となり、太平洋側では晴れの日が多かった。日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、北日本日本海側や山陰の山沿いでは平年を大きく上回る積雪となった所があった。1月下旬から2月はじめにかけては冬型の気圧配置が弱まり、移動性高気圧に覆われる日もあって、北日本の一部を除いては全国的に晴れの日が多く、気温がかなり高くなった。2月上旬半ばから中旬にかけては、低気圧が日本の南を周期的に通過したことから、太平洋側でも曇りや雪または雨の日があり、7日から8日にかけてと14日から16日にかけては、広い範囲で大雪や大雨となった。特に14日から16日にかけては、最深積雪が甲府（山梨県）で114cm、秩父（埼玉県）で98cm、前橋（群馬県）で73cmになるなど、関東甲信地方を中心に過去の記録を大幅に上回る記録的な大雪となり、甚大な被害となった。沖縄・奄美では、12月中・下旬に寒気や気圧の谷の影響を受けて曇りや雨の日が続いたが、1月は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

平均気温は、東日本、沖縄・奄美で低かった。北日本、西日本は平年並だった。降水量は、北日本、東・西日本太平洋側で多かった。一方、東日本日本海側では少なかった。西日本日本海側、沖縄・奄美は平年並だった。日照時間は、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。彦根（滋賀県）では冬の日照時間の多い方からの1位を更新した。北日本、東・西日本日本海側は平年並だった。

春（3～5月）:

北日本から西日本にかけては、春の日照時間がかなり多かった

春の平均気温は、東・西日本で高く、沖縄・奄美で低かった

北日本から西日本にかけては、低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わったが、高気圧に覆われ晴れる日が多かったことから、北・東・西日本では、春の日照時間がかなり多く、東日本日本海側で平年の118%、東日本太平洋側で平年の122%、西日本日本海側で平年の118%と、統計を開始した1946年以降で最も多くなった。降水量は、北日本日本海側と西日本では少なかったが、低気圧の通過時にまとまった降水があったことから、北日本太平洋側と東日本は平年並だった。特に、3月は、低気圧がたびたび発達したため、所々で大雨や大雪となる日もあり、東日本日本海側の月降水量は、3月としては1946年以降で最も多くなった。気温は、東日本では3月上旬に、西日本では3月上旬、4月上旬、5月上旬に寒気が入り低くなったが、3月下旬と5月下旬は南から暖かい空気が流れ込み、気温が平年を大幅に上回ったことなどから、東・西日本では春の平均気温が高かった。

沖縄・奄美では、春の前半は、低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わったが、高気圧に覆われ晴れる日が多かったため、降水量が少なく、日照時間が長い状態が続いた。春の後半は、低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、降水量が多く、日照時間が少ない状態が続いた。春を通して、冷涼な高気圧や寒気の影響を受ける日が多く、春の平均気温は低かった。

平均気温は、東・西日本では高かった。一方、沖縄・奄美では低かった。北日本は平年並だった。降水量は、北日本日本海側、西日本で少なかった。寿都（北海道）では、春の降水量の少ない方からの1位を更新した。北日本太平洋側、東日本、沖縄・奄美は平年並だった。日照時間は、北・東・西日本でかなり多かった。室蘭（北海道）、宇都宮（栃木県）、舞鶴（京都府）など17地点で春の日照時間の1位を更新した。沖縄・奄美は平年並だった。

夏（6～8月）:

夏の平均気温は、西日本で低かった一方、北日本、東日本、沖縄・奄美で高かった  
北日本、西日本太平洋側では、夏の降水量がかなり多かった  
西日本では、夏の日照時間がかなり少なかった

夏の降水量は、梅雨前線の影響は弱かったが、主に7月30日からの「平成26年8月豪雨」に伴い、北日本、西日本太平洋側ではかなり多く、東・西日本日本海側で多かった。気圧の谷の影響と太平洋高気圧の西日本付近への張り出しが弱かった影響で、西日本の夏の日照時間はかなり少なく、西日本の夏の平均気温は、2003年以来11年ぶりに低くなった。一方、日本の東海上の高気圧が強かった影響で、高気圧周辺の南からの暖かい空気が流れ込んだ北・東日本の気温は高く、暖かい空気に覆われることが多かった沖縄・奄美の気温も高かった。

梅雨前線は、6月は沖縄・奄美や日本の南海上に停滞したが、7月上旬に本州付近に北上した後、7月下旬に北日本まで北上した。このため、梅雨前線の影響は、沖縄・奄美では受けやすかったが、北日本から西日本にかけては小さかった。6月前半は、北日本から西日本にかけて気圧の谷の影響で、西日本を中心に日照時間が少なく、北日本と東日本太平洋側では、大雨となった所があった。また、台風第8号が7月8日に沖縄本島と宮古島の間を通過し、10日に鹿児島県に上陸して本州南岸を東進した。この影響で、沖縄本島地方では記録的な大雨となったほか、北日本から西日本にかけても局地的に大雨となり、各地で土砂災害や浸水害等が発生した。7月中旬は東・西日本太平洋側や沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなったが、湿った気流や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となって、北日本から西日本の所々で大雨となった。7月下旬は、東・西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多く猛暑日となった所が多かったが、23日頃に台風第10号の影響により八重山諸島で大雨となり、27日頃には低気圧の影響で北海道地方を中心に大雨となった。

7月30日から8月下旬にかけては、台風第12号及び台風第11号が相次いで接近するとともに、前線が日本付近に停滞し、日本付近へ暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだ。このため、各地で大雨となった（平成26年8月豪雨）。特に、四国地方の太平洋側では、台風第12号の影響で、8月1日から5日までの総降水量が多い所で1000mmを超える大雨となった。また、10日に四国地方に上陸した台風第11号の影響で、沖縄・奄美と西日本で暴風雨となり、四国地方や東海地方を中心に広い範囲で大雨となった。その後も前線の影響で16日から17日にかけては、近畿地方、北陸地方、東海地方で局地的な大雨が発生し、さらに、19日夜から20日明け方にかけては、広島県広島市で集中豪雨となり、大規模な土砂災害が発生した。

平均気温は、北・東日本、沖縄・奄美で高かった。与那国島、石垣島（以上、沖縄県）では、夏の平均気温の高い方からの1位を更新した。一方、西日本では低かった。降水量は、北日本、

西日本太平洋側ではかなり多く、東・西日本日本海側で多かった。雄武（北海道）徳島では、夏の降水量の多い方からの1位を更新した。東日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。日照時間は、西日本ではかなり少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。佐世保、雲仙岳（以上、長崎県）阿蘇山（熊本県）など4地点では、夏の日照時間の少ない方からの1位を更新した。一方、北日本日本海側で多く、北・東日本太平洋側では平年並だった。

秋（9～11月）：

北日本と東日本日本海側では、秋の日照時間がかかなり多かった

沖縄・奄美では、秋の平均気温がかかなり高く、秋の降水量が少なかった

北日本と東日本では、秋の平均気温が5年ぶりに平年並だった

9月から10月にかけて日本付近の偏西風は平年に比べ南寄りを流れ、9月を中心に大陸からの冷たい空気を伴った移動性高気圧に覆われる日が多かった。このため、北日本と東日本日本海側で秋の日照時間がかかなり多く、東日本日本海側では日照時間平年比が121%、東北地方では122%となり、1946年の統計開始以来、秋としては最も多い記録を更新した。また、北日本と東日本では、近年、秋の高温が続いていたが、2009年以来5年ぶりに平年並の気温となった。一方、沖縄・奄美では、9月を中心に高気圧の勢力が強くと、9月の月平均気温は平年差+1.3で、1946年の統計開始以来9月としては最も高い記録となった。10月は平年並の気温となったが、11月も気温が高く、秋の気温はかなり高くなった。

降水量は、9月は秋雨前線の活動が弱くと、全国的に降水量が少なかった。10月は、台風第18号と第19号が相次いで上陸したため、北海道地方と沖縄地方を除き、ほぼ全国的に降水量が多く、東日本ではかなり多くなった。11月に入ってから、寒気の影響が弱くと、北日本日本海側では降水量がかかなり少なかった。このため、秋の降水量は東・西日本では平年並となったが、北日本と沖縄・奄美では少なくなった。特に先島諸島では7月以降少雨が続くと、八重山地方では夜間断水となるなど、少雨の影響が深刻化した。

平均気温は、沖縄・奄美でかなり高かった。与那国島、西表島、石垣島（以上、沖縄県）では、秋の平均気温の、高い方からの1位の値を更新した。北・東・西日本は平年並だった。降水量は、北日本と沖縄・奄美で少なかった。雄武（北海道）西表島（沖縄県）では、秋の降水量の、少ない方からの1位の値を更新した。東・西日本は平年並だった。日照時間は、北日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。新庄（山形県）仙台（宮城県）伏木（富山県）など9地点では、秋の日照時間の、多い方からの1位の値を更新した。西日本では平年並だった。

#### 4 全国気候表 2014年(12月20日までのデータによる)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	( )	( )	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	9.7	(+0.4)	1166.0	(109)	136	1893.0	(111)
稚内	7.5	(+0.3)	1266.0	(123)	134	1626.4	(110)
北見枝幸	6.7	(+0.3)	1144.0	(102)	129	1602.5	(105)
旭川	7.6	(+0.3)	1243.5	(123)	137	1771.3	(113)
留萌	8.3	(+0.2)	1150.5	(106)	140	1691.8	(111)
羽幌	8.3	(+0.2)	1376.5	(112)	158	1705.3	(109)
岩見沢	8.4	(+0.3)	1185.5	(106)	134	1918.6	(114)
倶知安	7.4	(0.0)	1496.5	(106)	166	1648.5	(114)
小樽	9.2	(+0.3)	1328.0	(112)	156	1706.5	(106)
寿都	9.4	(+0.4)	1007.5	(89)	141	1558.4	(110)
網走	7.4	(+0.5)	955.0	(125)	99	1977.9	(108)
紋別	7.2	(+0.5)	985.0	(125)	104	1812.4	(107)
雄武	6.4	(+0.3)	1086.5	(128)	111	1713.9	(104)
釧路	7.4	(+0.8)	1215.5	(119)	85	2089.4	(109)
根室	7.2	(+0.6)	1180.0	(118)	94	1964.1	(109)
帯広	8.0	(+0.8)	885.0	(102)	82	2105.8	(107)
広尾	7.8	(+0.6)	1524.0	(91)	106	1975.1	(112)
室蘭	9.3	(+0.4)	1014.5	(87)	119	1993.0	(117)
苫小牧	8.3	(+0.3)	1457.0	(124)	102	1979.4	(119)
浦河	8.5	(+0.2)	1030.5	(98)	109	2093.2	(117)
函館	9.8	(+0.3)	1052.0	(94)	128	1975.5	(115)
江差	10.6	(+0.2)	963.5	(83)	131	1591.3	(110)
青森	11.1	(+0.4)	1401.0	(112)	149	1725.6	(109)
深浦	11.2	(+0.1)	1599.5	(113)	151	1509.7	(105)
むつ	10.1	(+0.2)	1230.0	(94)	141	1800.0	(113)
八戸	10.8	(+0.3)	1128.5	(112)	92	1954.1	(108)
秋田	12.4	(+0.3)	1705.5	(105)	169	1638.8	(109)
盛岡	11.1	(+0.5)	1271.0	(102)	131	1817.7	(110)
大船渡	12.0	(+0.4)	1709.0]	( )	108]	1855.5	(109)
宮古	11.2	(+0.3)	1538.0	(118)	95	1989.0	(109)
仙台	13.2	(+0.5)	1402.0	(113)	103	2034.4	(117)
石巻	12.2	(+0.3)	1317.0	(125)	98	2015.4	(107)
山形	12.3	(+0.2)	1275.0	(113)	137	1718.0	(108)
新庄	11.2	(+0.1)	1976.5	(111)	193	1387.5	(106)
酒田	13.2	(+0.2)	1684.0	(93)	176	1649.1	(107)
福島	13.7	(+0.3)	1349.5	(117)	109	1849.6	(109)
若松	12.1	(0.0)	1241.0	(106)	140	1738.7	(110)
白河	12.1	(+0.2)	1588.0	(113)	103	1887.1	(109)
小名浜	14.1	(+0.4)	1710.5	(122)	96	2171.6	(110)
水戸	14.5	(+0.5)	1457.5	(109)	98	2174.0	(117)
館野(つくば)	14.6	(+0.5)	1632.0	(128)	100	2135.3	(116)
宇都宮	14.6	(+0.4)	1757.0	(119)	103	2098.0	(114)
日光	7.3	(0.0)	2542.5	(118)	119	1862.6	(109)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	( )	( )	(mm)	(%)		(h)	(%)
前橋	15.3	(+0.4)	1394.0	(112)	89	2262.3	(111)
熊谷	15.7	(+0.4)	1384.0	(109)	89	2284.3	(116)
秩父	13.7	(+0.2)	1575.5	(119)	93	2062.0	(113)
東京	17.0	(+0.4)	1802.5	(119)	105	2032.1	(112)
大島	16.5	(+0.1)	2601.0	(93)	112	1917.5	(109)
三宅島	17.6]	( )	3134.5	(108)	134	1752.7]	( )
八丈島	17.9	(-0.1)	2869.0	(91)	160	1449.8	(106)
父島	23.0	(-0.3)	1247.0	(99)	102	1958.2	(98)
千葉	16.6	(+0.6)	1482.0	(108)	100	2038.5	(111)
銚子	16.2	(+0.5)	1700.0	(104)	112	2192.5	(116)
館山	16.4	(+0.2)	1803.5	(102)	103	2102.2	(112)
勝浦	16.3	(+0.3)	2210.5	(114)	107	2032.7]	( )
横浜	16.5	(+0.4)	1853.0	(111)	102	2144.3	(113)
長野	12.3	(0.0)	890.5	(97)	105	1988.8	(105)
松本	12.3	(+0.1)	1031.5	(101)	92	2126.4	(104)
諏訪	11.4	(-0.1)	1351.0	(106)	104	2138.7	(104)
軽井沢	8.7	(+0.1)	1338.5	(109)	109	2026.3	(108)
飯田	13.0	(-0.1)	1571.0	(99)	116	2062.7	(105)
甲府	15.1	(0.0)	1178.5	(105)	81	2249.6	(107)
河口湖	11.1	(+0.2)	1513.5	(97)	101	1986.8	(105)
静岡	16.9	(0.0)	2368.0	(103)	105	2124.1	(105)
浜松	16.8	(+0.2)	1828.5	(102)	99	2231.3	(104)
御前崎	16.6	(-0.1)	2035.5	(100)	101	2234.9	(103)
三島	16.4	(+0.2)	1656.5	(89)	104	1938.0	(103)
石廊崎	16.7	(-0.2)	1593.0	(91)	103	2198.3	(107)
網代	16.5	(+0.2)	1826.5	(93)	102	1882.5	(108)
名古屋	16.4	(+0.2)	1490.0	(98)	105	2184.3	(108)
伊良湖	16.4	(+0.1)	1507.5	(95)	96	2206.5	(103)
岐阜	16.4	(+0.2)	1704.5	(94)	106	2142.9	(106)
高山	11.3	(-0.1)	2057.0	(124)	147	1686.1	(106)
津	16.4	(+0.1)	1582.5	(101)	98	2077.8	(104)
上野	14.8	(+0.2)	1336.0	(99)	102	1871.5	(109)
尾鷲	16.4	(0.0)	4619.0	(121)	114	1958.3	(104)
四日市	15.3	(+0.1)	1780.0	(104)	100	1962.8	(103)
新湊	14.1	(-0.1)	1860.5	(106)	163	1747.0	(107)
相川	14.2	(0.0)	1771.5	(122)	141	1678.9	(104)
高田	14.0	(0.0)	2950.5	(114)	188	1667.4	(107)
富山	14.7	(+0.3)	2366.0	(107)	158	1745.4	(110)
伏木	14.4	(+0.1)	2312.0	(108)	152	1765.9	(111)
金沢	15.1	(+0.1)	2474.5	(107)	152	1835.6	(111)
輪島	13.9	(+0.1)	2349.0	(116)	151	1621.1	(105)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	( )	( )	(mm)	(%)		(h)	(%)
福井	15.0	(+0.1)	2298.0	(107)	159	1766.5	(111)
	敦賀	15.7	(+0.1)	2254.5	(112)	155	1661.6
彦根	15.3	(+0.3)	1413.5	(92)	121	1926.7	(107)
京都	16.5	(+0.3)	1356.5	(92)	101	1772.7	(103)
	舞鶴	14.9	(0.0)	2015.5	(114)	149	1535.8
大阪	17.0	(-0.2)	1264.5	(100)	99	2102.4	(108)
神戸	17.1	(0.0)	1201.0	(100)	87	2036.7	(105)
	豊岡	14.7	(0.0)	1937.5	(100)	157	1456.6
姫路	15.6	(0.0)	1139.5	(96)	99	1886.7	(95)
	洲本	15.7	(-0.1)	1827.0	(131)	96	1961.2
奈良	15.3	(+0.1)	1308.0	(101)	103	1811.4	(102)
和歌山	17.0	(0.0)	1396.0	(107)	99	2089.3	(103)
	潮岬	17.4	(-0.1)	3023.0	(121)	116	2187.1
岡山	16.5	(0.0)	1135.5	(104)	94	1921.4	(97)
	津山	14.1	(+0.1)	1376.5	(99)	108	1671.2
広島	16.6	(0.0)	1562.5	(103)	107	1924.5	(97)
	呉	16.5	(0.0)	1200.5	(88)	94	1895.0
福山	15.7	(0.0)	1120.0	(101)	100	1967.4	(96)
松江	15.3	(+0.1)	1786.0	(103)	144	1689.0	(101)
	西郷	14.5	(-0.1)	1672.5	(96)	135	1663.5
浜田	15.7	(-0.1)	1609.5	(99)	135	1740.8	(101)
鳥取	15.3	(+0.1)	1849.0	(100)	152	1681.0	(103)
	米子	15.4	(+0.1)	1640.0	(95)	139	1725.8
境	15.5	(0.0)	1693.0	(92)	136	1620.4	(96)
徳島	16.7	(-0.2)	2509.0	(174)	102	2036.3	(100)
高松	16.8	(+0.2)	1219.0	(114)	104	1926.5	(96)
	多度津	16.6	(0.0)	1060.0	(100)	95	2015.6
松山	16.8	(0.0)	1415.5	(109)	106	1849.6	(94)
	宇和島	17.1	(0.0)	1898.5	(116)	128	1851.1
高知	17.4	(+0.1)	3649.0	(144)	120	2020.7	(97)
	宿毛	17.3	(0.0)	2378.5	(122)	108	1940.0
清水	18.5	(0.0)	2684.5	(110)	128	2080.9	(97)
	室戸岬	16.8	(-0.2)	2672.0	(116)	114	2163.4
山口	15.7	(-0.1)	1699.5	(91)	124	1718.2	(93)
	下関	17.0	(0.0)	1662.5	(100)	117	1729.3
萩	15.8	(-0.1)	1710.5	(105)	126	1629.9	(95)
福岡	17.4	(+0.1)	1753.0	(110)	122	1755.7	(96)
	飯塚	15.9	(-0.1)	1913.0	(110)	125	1702.1

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	( )	( )	(mm)	(%)		(h)	(%)
大分	16.7	( 0.0)	1612.0	( 99)	107	1784.4	( 92)
日田	15.9	( +0.1)	1603.0	( 90)	105	1668.9	( 95)
長崎	17.4	( -0.1)	2125.5	(116)	115	1712.0	( 94)
厳原	16.2	( +0.1)	2094.0	( 94)	95	1725.0	( 95)
平戸	16.4	( 0.0)	2337.0	(112)	120	1673.4	( 96)
佐世保	17.3	( 0.0)	2217.0	(115)	118	1812.5	( 97)
雲仙岳	13.0	( -0.1)	3026.0	(106)	142	1245.4	( 88)
福江	17.0	( -0.1)	2322.0	(101)	122	1630.6	( 95)
佐賀	17.1	( +0.3)	2247.0	(121)	112	1802.5	( 94)
熊本	17.1	( -0.2)	1692.0	( 86)	118	1825.2	( 94)
阿蘇山	10.1	( -0.1)	2697.5]	( )	154]	1371.5	( 91)
人吉	15.8	( -0.1)	2443.0	(103)	128	1608.7	( 90)
牛深	18.1	( -0.2)	2413.0	(124)	128	1751.0	( 92)
宮崎	17.7	( -0.1)	2731.0	(110)	120	1997.7	( 97)
延岡	17.0	( +0.1)	2386.0]	( )	104]	1986.5	( 97)
都城	16.9	( +0.1)	3190.5	(130)	130	1824.7	( 97)
油津	18.5	( 0.0)	3049.5	(118)	126	1779.2	( 94)
鹿児島	18.8	( -0.1)	2825.5	(126)	129	1810.9	( 96)
阿久根	17.4	( -0.2)	2276.5	(112)	129	1814.4	( 95)
枕崎	18.2	( -0.2)	2399.0	(112)	134	1778.9	( 94)
屋久島	19.5	( -0.2)	5495.5	(125)	165	1365.1	( 91)
種子島	19.6	( -0.3)	3012.0	(130)	142	1729.0	( 98)
名瀬	21.7	( -0.2)	3146.0	(113)	152	1270.0	( 95)
沖永良部	22.6	( 0.0)	1981.0	(110)	114	1798.3	( 98)
那覇	23.3	( +0.1)	2573.5	(129)	134	1716.2	( 99)
名護	22.8	( 0.0)	2831.0	(143)	144	1696.9	( 98)
久米島	23.3	( +0.2)	2055.5	(100)	128	1679.3	( 97)
宮古島	24.0	( +0.2)	1689.0	( 86)	133	1799.7	( 104)
石垣島	24.8	( +0.4)	1264.0	( 62)	102	2016.0	( 111)
西表島	24.2	( +0.4)	955.5	( 43)	101	1806.7	( 106)
与那国島	24.3	( +0.3)	1290.5	( 57)	109	1695.2	( 109)
南大東島	23.4	( 0.0)	1659.5	(108)	118	2049.6	( 99)

- (注) 1. これらは12月20日までの観測値を使った集計結果である。  
2. 値の横に ] がある場合(資料不足値)には、統計期間内のデータに欠測等統計に用いなかった値が含まれているので注意されたい。  
3. 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したものに對する差(比)である。

東京は、12月2日に大手町の観測値から北の丸公園における観測値に切り替わったが、2014年の平均気温、降水量、降水日数は、両観測点の観測値をそのまま統計処理している。また平均気温の平年差については、11月まで観測していた大手町の平年値と比較している。

## 5 平年差（比）が観測史上1位を上回っている地点

（12月20日までのデータによる）

過去の平年差（比）と同値は「＝」で表す。

### 年平均気温の平年差が最高値を上回っている地点

なし

### 年平均気温の平年差が最低値を下回っている地点

なし

### 年降水量の平年比が最大値を上回っている地点

なし

### 年降水量の平年比が最小値を下回っている地点

地点名	2014年(12月20日まで)			これまでの最小 平年比(西暦年)	統計 開始年
	平年比 %	値 mm	平年値* mm		
西表島	43	955.5	2244.9	58 (2003)	1955

### 年日照時間の平年比が最大値を上回っている地点

地点名	2014年(12月20日まで)			これまでの最大 平年比(西暦年)	統計 開始年
	平年比 %	値 h	平年値* h		
室蘭	117	1993.0	1699.8	111 (1952)	1923
浦河	117	2093.2	1791.6	115 (1970)	1927
仙台	117=	2034.4	1745.2	117 (1978)	1927
熊谷	116	2284.3	1965.4	114 (2013)	1899
銚子	116	2192.5	1897.7	114 (2013)	1899
館山	112=	2102.2	1876.6	112 (2013)	1968

### 年日照時間の平年比が最小値を下回っている地点

なし

（注）これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるので、年末までのデータを加えた確定値では変わる可能性がある。

値の横に「＝」がある場合（資料不足値）には、統計期間内のデータに欠測等統計に  
用いなかった値が含まれている。順位は極値順位以上になることは

確認であるが、統計値の使用に際しては注意されたい。

平年値（\*）は日別平年値を平均・合計したものである。

平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。